

浅井市川海損精算所 創立百周年祝賀会 創業者の志を引継ぎ次の百年へ

浅井市川海損精算所は2月14日、東京都千代田区の帝国ホテルで、創立100周年記念祝賀会を開催した。祝賀会で中島清一社長は、同所のこれまでの歴史を振り返った上で、創業者の志を受け継ぎ次の100年に向けた新たな挑戦を行うとし、「海運業界の発展に寄与するため、さらなる専門性の向上と人材育成にも取り組んでいく」と述べた。当日は、保険会社をはじめ、関係各所から約100人が参加した。



中島社長

祝賀会の冒頭、同所の 社史のビデオが上映さ 1925年に創業し、 義嗣(よしと)氏と 市川牧之助氏が日本の海運業界に おける共同海損の第一人者として

て触れ、創業者の二人が日本の海運業界の発展に向け、共同海損の重要性を認識し、業界の第一人者としての役割を果たしたとし、「志を受け継ぎ、われわれも次の100年に向けて新たな挑戦を続けていく」と述べた。

また、同社が100年存続できた要因について、①社会から必要とされる存在であり続けたこと②社会から評価され認められる存在であり続けたこと③知識と経験豊富なプロフェッショナル集

高度な業務知識と豊富な経験の人材を基盤に

められる存在であり続け、三つを歴代の役員が実践してきたことを挙げ、さらに、同氏は人材育成の重要性を強調。業界のベテラン層の減少に伴うノウハウの継承や人材育成が最優先課題であるとし、2023年から専門部署としてコンサルティング部を新設し、より高度な業務知識と豊かな経験を有する人材を大幅に増員したことを報告した上で、「これにより、顧客のニーズに応える体制を整え、次の100年に向けた基盤を構築していきたい」と語った。

次に、来賓としてあいさつをした三井住友海上常務執行役員の海山裕氏は、「浅井市川海損精算所が創立100周年を迎えられたことは、長年にわたる努力と功績の結晶であり、海上保険業界全体への貢献も高い」と称賛した上で、「今後も専門性と経験を生かし、業界全体の発展に寄与することを期待している」と述べた。



中島社長らが鏡開きを行った



約100人が参加した

また、業界の現状について、「近年の海運業界は厳しい環境に直面しており、物流環境の変化や海難事故の増加により、業務の難易度が高まって

精算人協会会長)の平田大器氏、損保ジャパン海上保険金サービス部長の藤本智洋氏、三井住友海上グローバル損害サポート部部長の塩坂裕司氏、中島社長が鏡開きを行った後、参加者全員で同所のさらなる発展を願って乾杯を行った。